

令和5年度 古賀っ子学力向上プラン

長崎市立古賀小学校

学校教育目標	
身ら考え主体的に判断し行動する、心豊かで心身ともにたくましい子供の育成 ～同じ方向に向かってみんなで徹底実践しようとする古賀っ子の育成～	
<やる木>	課題解決意識をもって学び合う子ども
<げん木>	元気にあいさつをし、しっかり反応する子ども
<こん木>	目標に向かって成しとげようとする子ども

本校の課題	重点努力目標（学力向上にかかわる目標）
<ul style="list-style-type: none"> ○学習に根気よく取り組むことや、自ら考えて行動することが不十分。 ○知識に比べ、思考・判断・表現の力が不足している。 ○意図を捉えながら読んだり、自分の考えを話したり書いたりするのが苦手。 ○学力の2極化がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力調査における平均正答率の国、県との差を+3ポイント上げる。 ○基礎・基本を身につけ、文の意図を捉えながら読み、自分の考えをもつことができる子どもの育成。 ○授業での児童の思考力・判断力・表現力の向上。課題解決意識の向上。

<p>【家庭学習の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習「学年×10+10分」の定着（全校児童の95%以上を目標） ○自主学習の奨励 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引きの作成 【個別指導の徹底】 ○個に応じた指導 ○Chromebookを積極的に活用した家庭学習の取組（個別最適な学び） 	<p>【基礎基本・思考、判断、表現力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教科における言語活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・書く活動(条件作文, 感想, 自分の考え, まとめ等)を授業の中に設定する。(全授業の90%以上を目標) ・書き方・話し方の基本を「教える、誉める、続ける」 ・前時で学習したことや、本時で分かったこと、自分の考えを話したり、記述したりする。 ○主体的で対話的な活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で考えを伝え合う児童の育成に向けた校内研究(算数科を軸として) ・図や数直線等を用いて説明する場の設定 ○学習内容の定着する場が設定された算数授業(全時間の90%以上を目標) ○ペア活動、グループ活動等、協働的な学びを取り入れる ○語彙の獲得 <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の充実(読書タイム・年間読書冊数の目標設定) ※年間の貸し出し数の目標を全校児童80%以上達成 ○スキルタイムの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・アシストシートや漢字小テストの活用 ○習熟度別学習を取り入れる
<p>【学びの環境作り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のきまりの徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・「古賀っ子の学習のきまり」の内容を検討し、共通理解を図る。 ・挨拶や前面掲示の統一 ・姿勢や授業中の言葉遣い ・「古賀っ子の学習のきまり」について全学年統一して取り組む。 ○電子黒板等 ICT 機器の活用 ○特別支援教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会を積極的に活用した支援体制の構築 	<p>【授業力・指導力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分かる授業を展開する <ul style="list-style-type: none"> ・学習の「めあて」と「まとめ」を意識した問題解決型の授業づくり(全授業の100%を目標) ・児童が「できた」「分かった」と実感する授業の実施(ふりかえり等で児童の80%を目標) ・教師の意図通り児童に伝わるような言葉や文章の工夫 ・ICTの活用

<p>【授業力・指導力向上のための研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内研究の重点努力目標に根差した授業を実践し、教職員の授業力・指導力を向上させることで、児童の基礎学力の向上をめざす。 <ul style="list-style-type: none"> ・全員で算数科授業の研究をする。(全員1本授業の実践) ○外部の研究発表会、各種研修会への積極的な参加と伝達。 ○情報教育担当教員によるICT機器の活用に関する研修。
